

2 男木島概要

男木島は、高松港の北 8.1km、備讃瀬戸に浮かぶ周囲約 5.0km、面積 1.3km²の小さな離島である。居住区のほとんどが傾斜地に形成されているが、男木港から望めるその風景そのものがまるで「アート作品」であるかのような貴重な風景となっている。

島の人口は、年々減少傾向にあるが、瀬戸内国際芸術祭の開催以降、I・U ターン者が増えてきており、若者層と高齢者層が互いに協調し合いながら生活する新しい形のコミュニティが形成されつつある。

島の北端には明治時代につくられた御影石造りの洋式灯台があり、その周辺に水仙郷づくりが進み、観光に力を入れている。また、平成 22 年より始まった、瀬戸内国際芸術祭の開催地として（「アートの島」として）も話題になり、特に若い世代の観光客が多く訪れている。平成 31 年・令和元年には第 4 回瀬戸内国際芸術祭が開催され、国内だけでなく世界中から大勢の観光客が訪れ、賑わいを見せた。令和 4 年度には第 5 回瀬戸内国際芸術祭、3 年ぶりとなる灯台祭りや灯台水仙祭りが開催され、男木島全体が大いに盛り上がった。

平成 26 年 4 月より学校が再開し、本年度で 10 年目を迎えている本校には、現在、小学生 7 名、中学生 1 名の児童・生徒が在籍している。平成 28 年 4 月に完成した新校舎には、保育所が併設しており、さらに平成 29 年には運動場が芝生化され、現在は体育の授業や休み時間等に、子ども達が楽しく安全に活動したり遊んだりしている姿がみることができるなど、施設面も徐々に充実してきている。地域からは「島の宝」である子ども達の教育の充実に対して、ますます厚い期待が寄せられている

<再開からの軌跡>



地域に祝福された再開式



芝生化された運動場での運動会



校舎外観



体育館壁面もアートに